



TITLE:

京大上海センターニュースレター 第136号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科上海センター

CITATION:

京都大学経済学研究科上海センター. 京大上海センターニュースレター 第136号. 京大上海センターニュースレター 2006, 136

ISSUE DATE:

2006-11-23

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/26452>

RIGHT:

京大上海センターニュースレター

第 136 号 2006 年 11 月 23 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○「国際シンポジウム 近代上海像の再検討」のご案内

○青島 田吾作 駐在記

+++++
京都大学経済学研究科上海センター主催

「国際シンポジウム 近代上海像の再検討」のご案内

■主催 京都大学上海センター

■日時 2007 年 1 月 21 日（日）午前 9 時～午後 6 時

■会場 京大会館（京都市左京区吉田河原町 15-9 電話 075-751-8311）

■プログラム

午前 9 時～12 時

◇張忠民（上海社会科学院） 「近代上海の都市総合競争力」

◇陳計堯（東海大学） 「近代上海食糧市場の変遷——米穀と小麦粉の比較研究 1900-1936——」

◇堀和生（京都大学） 「上海の経済発展と日本帝国」

午後 1 時 30 分～6 時

◇李培徳（香港大学） 「1920 年代から 1930 年代まで上海銀行家の横顔——上海商業儲蓄銀行を事例として——」

◇蕭文嫻（大阪経済大学） 「中国幣制改革と外国銀行」

◇小瀬一（龍谷大学） 「開港場間貿易と中国の市場統合」

◇木越義則（京都大学） 「両大戦間期上海における貿易物価構造」

午後 6 時～7 時半 記念レセプション

■事務連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院経済学研究科 堀 和生

電話 075-753-3438 ファックス 075-753-3499

e-mail hori@econ.kyoto-u.ac.jp

+++++

青島 田吾作 駐在記

積水(青島)塑膠有限公司 藤井 重樹

2006年7月に青島に赴任後4ヶ月余りが経過した。私にとって初めての海外勤務であり、聞いてはいたが仕事上でも生活上でも色々と想定外のことが起こる。軸を失わず臨機応変に対応、青島生活を楽しみながら業務に邁進したいと思う。4ヶ月余りの中での田吾作駐在記の幾つかを紹介したい。

◆まず衣食住！

【衣】赴任した7月、中国の人はほとんどの人がオフィスでも半そで開襟シャツでネクタイはしていない。手荷物に長袖シャツしか持ってこなかったのも、青島のジャスコで半袖シャツを購入したが、この格好は楽。その写真を家内に送ったところ、「中国のおっちゃんになっている」とのコメント。

【食】中華料理のレストランに行くと何をオーダーしても一皿3空人前位あるので、基本的に3名以上いないと行けない。よって一人で食事するときは日本食になる。これだと1人前出てくる。只、夏、ナマモノには注意が必要。同僚が鉄火丼を食べて食中毒になり大変だった。

【住】最初、事務所近くに仮住まいしていたが、日本のTVが全く映らず、最上階なのでお湯が出ていく風呂を一杯にするのに20分位かかる。それから面倒くさいのでシャワーのみにしている。夏の青島は日本より涼しいので過ごしやすく多くの観光客が中国各地から来るのが判る。只、冬はマイナス15度になり風も強く、事務所の暖房はあまり入らなく大変寒いらしい。

買ったばかりの掃除機が火を噴いたが、保証書が無いに関わらずハイアールの人に来てくれて無償でモーター交換。さすがハイアール、アフターメンテはしっかりしている。

◆中国の臭い

どこの国でもその国独特の臭いを感じるが、中国にも町を歩いてもホテルでもレストランでも独特の臭いがある。これはどうも残飯の処理が原因の一つではないかと思う。アパートで必要な家庭用品を購入したが、日本で通常使っているキッチンの三角コーナーと網袋が何処に行っても売っていない。中国では残飯を水をさらずに放置したり捨てたりするので、それが臭いの原因の一つになっているのでは・・・。

◆モノの価格

中国に来てまず感じるのは価格の安さである。タクシーなんかは15分位走っても200円まで、マッサージなんかは1時間で500円から700円の間で10分間1000円の東京の約1/10だ。林檎、梨、桃は各3個全部で9個買っても品種にもよるが普通のものなら200円～300円で買える。只、日本から輸入の食材は日本の約3倍する。シーチキンの缶詰が日本なら100円が青島では300円。電気製品も安く掃除機なら安いものなら3000円からある。以外と高いのはウオシュレット。食事は大衆食堂へ行けば3名行っても1000円までで済むところが多いが、日本料理店に一人で行って、つまみ、ビール、そばくらい食べて2000円位になる。(利益率高そう。)今年、山東省で日本人駐在の方が殺されたが、これが依頼殺人で、7500円位で請け負うそうである。うらみを買うと大変である。4ヶ月経ち生活に慣れてきたが改めて外国にいるということを感じる。

◆AGR(積水青島で製造販売している樹脂管)のブランコ

大型高級マンション物件へのAGR納入が決まった。モデルルームを見学させてもらったが約100棟あるマンションは全て、TOTO、リンナイ、シーメンス、三菱等の製品、床は大理石と非常に高級。販売価格は1平方メートルあたり12万円程度。先方曰く「AGRは目に見えないので、配管にこんな高級パイプを使用しているということを、工場でお客さんに見せているAGRのブランコを使ってお客様にアピールしたい。」ということでAGRのブランコを製作し納入した。これをモデルルーム入口のレセプションセンターに置いたところ多くのお客様が何の気兼ねもなくAGRのブランコに乗り感心している。「強いパイプだね！これは凄い！」ユーザーに訴えるには単純明快なことが必要だ。Intel inside ならぬ SEKISUI inside でユーザーもインテルの入っているパソコンを買うように、SEKISUI AGR の入っているマンションを選んでくれてブランド価値が更に上がれば良いのだが・・・そうすれば商売が楽になる。

◆飲めない水

青島には水道水を 2010 年には飲めるようにしようという計画がある。青島の水源は黄河で、水道の蛇口を捻ると出てくる水は無色透明、無臭だが、これが曲者で飲むことは出来ない。日本人はうがいをして腹をこわす事があるらしく、小職は料理はもちろん歯磨きもミネラルウォーターを使っている。飲めない理由は硬水である事、黄河の最下が取水ポイントで生活排水や工場廃液が多く流入しているからである。都合の悪い事は「水に流す」という言葉が日本にはあるが、これは綺麗で豊富な水がある日本ならではの事ではないかと思う。水が文化に及ぼす影響の大きさに今更ながら感じる。

★中国語と日本語

週 1 回、青島大学の日本語学科の学生を家庭教師に中国語を勉強しているが、正直この歳になると新しい外国語の習得は大変である。特に日本語にない発音があるので、間違いなく話すのは非常に難しい。日本語を学ぶ中国人にとって日本語の発音は簡単で間違いは少ないらしく、難しいのは敬語、丁寧語とのこと。よく誰それは敬語もきっちりしゃべれるので日本語が上手いと聞く。

ある中国人曰く

- ・丁寧語には「お」を付けると良いと勉強した。しかし例外がいっぱいある。
- ・「おねぎ」「おいも」はあるが、「おほうれん草」「おかぼちや」はない。
- ・「お醤油」「お味噌」とは言うが「お胡椒」とは言わない。
- ・「お二階」と言うのに「お三階」「お四階」と言わないのは何故か？

以上を聞かれたが、うーんと唸ってしまった。小職にも判らないから、一から日本語を学ぶ人には全く不思議で且つ難しいと思う。これらを自由に喋れる人は上級者に違いないとあらためて感じた。

★資金繰り

親しくなった販売先の購買部長から「お金はすぐ払いますので安心下さい。」との話を何回もしてくれ、少しやきもきしたが入金があった。これなんか例外である。中国において代金回収はとても頭の痛い問題だ。中国では、支払を遅らせることこそ経営手腕と見做される場合も多いので構造的な問題になっている。また、中国では日本のように手形不渡りによる取引停止処分がないため、不渡りを出した企業も淘汰されない。大変である。こんな状況で毎日一番気を遣うのは資金繰り。出金に印鑑を押すのは一番ストレスが溜まる。

★初めての病院

前日の乾杯のし過ぎと油濃い食べ物で胃の調子が悪く熱が 36.8 度（平熱が 35 度少し）も出たので、ウエルビー（海外医療サポート会社）に連絡して病院に行くことにした。ウエルビーに電話すると女性が出て、青島市民病院の前で待っているという。病院の前で待っていてくれた彼女に案内され医師の前に座ると、彼女が通訳してくれる。触診の結果大したことがないということで飲み薬をもらって帰った。その飲み薬はアンプルに入っている。食後その薬を飲んでから何気なく箱をよく見てみると「注射液」と書いてある。大変だ！・・・渡された薬が間違っていたのかとびっくりしてウエルビーの女性に電話してみると、中国ではよく注射液を飲むとのこと。翌日全快したが、「注射液」はなんとも変な味である。健康には注意したい。

★「みしみし」

中国人と一緒にご飯を食べようとするとき、時々「みしみし」と言う。これは「みしみし」でなく「飯々（めしめし）」だとのこと。何処でこの変な日本語を覚えたかと言うと、TV で 2 つくらいは常時やっている反日映画、ドラマからである。ここに出てくる日本兵が農家に押し入り「みしみし」と言いご飯を要求する訳。これ以外にも反日番組に出てくる日本兵は変な日本語をいっぱい使っているの、あの番組は「美しい日本語」を覚えるにはマイナスである。

中国の方と会食するときは政治的な話題は避けるが、今まで「小泉首相をどう思いますか」という質問を 2 回受けた。2 回目が先月で代理店社長の部下で女性、おじいさんが日本兵に殺されたとのことで段々興奮してくる。代理店社長は気を遣い通訳に訳すなど指示していた。「母は小泉首相が嫌いで・・・」という爆笑、その後は中国人と結婚してアメリカに住んでいる親戚の話や漢詩の話。そして最後はビジネスが上手くいくよう握手して再会を誓った。この代理店は 30 階建の自社ビル、200 以上のショップを持っていて、この日が新規契約の日だった。